

第6回宝塚市議会意見交換会記録 第2部

※ この記録は、市民発言者と議員の意見交換の様子について、書記として参加した議員が記録したものを元に作成しています。

「宝塚市立身体障害者支援センター条例と指定管理者が行う業務概要」

市民　今回はレアなテーマ。7月22日の議会報告会に参加したところ、たまたま指定管理についての報告があり、質問をその場でしたがテーマが違うということで回答がもらえなかったのが今回意見交換会に参加した。

一度伊丹市に転出し、6年前に宝塚に再転入した。子どもが身体障害者支援センターに通っている。親の介護、自分自身の病気のことなどがあり、市の福祉行政には感謝している。手話言語条例、障害者差別解消条例など、他市に先駆けている。

しかし、身体障害者支援センター条例と指定管理者が行う業務にギャップがあると考えている。条例には、生活介護と自立訓練を行うとあるが、指定管理者が行う業務概要には、「当分の間生活介護のみ行う」とあり、自立訓練が行われていない。

当分の間とはいつまでなのか。特別支援学校を出て身体障害者支援センターに入っても訓練できない。指定管理者である、社会福祉協議会は必死で頑張っている。予算がないため、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）など専門職が常駐していない。本来、本人の状態、希望など、医師、療法士が細かく話して訓練する。今年1月、骨折事故による手術・入院をした人がいるが、設備もない。父母の会から要望を出したが、宝塚市は考えますとの返答のみである。

当分の間と言われて首を長くして待っている。議会として後押しをお願いしたい。

議員　これまで議会で同様の質問をしてきた。必要な人が多いが、確かに週に1回の専門職派遣では足りない。必要な人に合わせて、必要な分だけ確保すべき。社協が地域の人とつながって人を確保すべき。18歳以上の受入場所が無いことも問題。機能的問題は本来必須。24時間365日介護できない。

議員　身体障害者支援センターの指定管理については、募集しても社会福祉協議会以外に手が挙がらない。予算的な問題が一番大きい。現在、市は5年で53億円足りない状況であり、事業を削減しないといけない。いろいろなところから予算要望があるが、逆に削れるところを探して検討しており、市独自に行っている施策

は削減の方向に動いている。どこを優先するか議論が必要。

市民 8月9日に意見交換会の応募受付の知らせを受けた。応募してから身体障害者支援センターに議員が誰も来ていない。期待していたが誰も現状確認に来ないし、問い合わせもない。私が説明する前に調査すべきではないか。まず宝塚の現状を見てほしい。超重度の人も自分で動ける人もいる。法律で規定され、条例で規定されていることが、なぜ、当分の間放置されているのか。条例違反ではないか。身体のケアをしない支援センターには意味が無い。歴代担当が見過ごしてきた。宝塚市第4次障がい者施策長期推進計画では、計画立案、財源の確保が明記されている。計画期間はあと3年。企画立案、合意形成、予算配分、創意工夫していない。

予算が厳しいとの話があったが、県内の2016年度の所得レベルは、1位が芦屋市、2位が西宮市、3位が宝塚市、全国では35位。伊丹市は県下8位。

伊丹市に居住していた時には、伊丹市立障害者福祉センター（アイ愛センター）に通所していた。アイ愛センターでは専門職が常駐しており、温水プールを完備、18歳以上の人にも訓練を実施。法定期限の2年を過ぎても市費で実施しており、ハード・ソフトともに満足のいくサービスだった。身体訓練は一生必要であるが、宝塚は充実していない。宝塚市の自立支援協議会を傍聴したが、アイ愛センターを理想的な施設と発言されていた。

伊丹市から宝塚市に転入するとき、宝塚市は障がい者施策が進んでいると言われた。実際に戻ってみて、子どもに申し訳なく思っている。身体障害者総合支援法に基づいて出来ていないことをチェックしてほしい。

市民福祉金は出続けている。母子・父子・他の障がいの人もいるが、予算の面ではそこを頼らざるを得ない。

議員 現場に行けていないことについては反省したい。まず、現場に行って現状をしっかりと調査したい。

議員 以前委員会で支援センターに視察に行ったことがある。高齢者と障害者の予算比は19対1で、法整備が遅れ気味。市民福祉金については実態調査を。70%が所得100万円以下。見てもらわないとわからない。

議員 市議会も障がい者福祉にしっかり取り組んできた。市民福祉金についても検討しており、南・西身体障害者支援センターが満杯で新たな施設の検討もしている。福祉・子育てなどいろんなテーマがある。今後議会も市当局も考えていく。どこに予算をつけるか、長い目で見てほしい。

議員 意見や要望は実現しないといけない。積極的に取り組んでいきたい。自立支援は居宅での入浴支援で機能訓練ではないと市当局から聞いている。

市民 障害者総合支援法で生活、訓練介護ははっきり謳われている。総合支援法と実態のギャップが問題ととらえている。

議員 市民福祉金は来年半額削減、再来年は廃止となっている。母子・父子・遺児などには説明は無い。基金を積む計画もあるが具体化されていない。市民福祉金はいろんな意見がある。18歳以降のリハビリセンターの必要性は議会も当局も認識している。

議員 宝塚市の予算シフトを変えるべきだと考える。ガーデンフィールズ跡地などあるが、観光都市か、ベッドタウンなのか。中核市に移行することにより財源の確保は可能ではないか。

議員 現場を見られていなかったことは反省する。

市民 中川市長が衆議院議員時代に介助犬法をつくるときに超党派で取り組んだ。宝塚市議会でも超党派で取り組んでほしい。歌劇や手塚だけでなく、障がい者にも優しいまちに。私の希望は指定管理は社会福祉協議会にしてもらいたい。「当分の間」はどの程度のものか。

議員 議会の政策研究会でも視察に行ったことがある。しっかり問題解決に努力したい。